

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	物理学(基礎)						
担当講師	佐藤 英一						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

物理学は難しいと思われがちであるが、医療業務において物理学に関連する知識は必要である。たとえばX線の発見は人体の透視という画期的な診断法をもたらした。このように医療技術の原理は物理学に基づいていることが多い。よって本科目では、医療に役立つ医学物理の基本概念を習得する。

学修到達目標

- 1. 距離, 速度, 加速度の関係を式で表し, 説明できる.
- 2. 簡単な流体力学を式を用いて説明できる.
- 3. 熱力学の諸法則を式を用いて表し, 解説できる.
- 4. 音の波長, 速度, 振動数を式で表し, 説明できる.
- 5. 簡単な直流回路と交流回路を図示し, 電圧, 電流, 抵抗, インピーダンスなどを計算できる.
- 6. $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ X線, 放射線量の単位などを説明できる.

授 業 計 画

- 第1回 単位系と物体の運動
- 第2回 力と加速度
- 第3回 仕事とエネルギー
- 第4回 流体
- 第5回 熱
- 第6回 波動
- 第7回 電気と磁気
- 第8回 放射線
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

筆記試験

教科書

系統看護学講座 物理学 医学書院

参考図書・文献

医歯系の物理学 東京教学社

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義前にシラバスにある講義内容を調べ, 次のURLから資料をダウンロードし, 可能な限り事前学修を行う.

<http://raysinc.jp/e-learning.pdf>

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	化学(基礎)						
担当講師	中島 理						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

化学は、物質の構造、性質、変化等を直接取り扱う学問である。
本講義では化学の基本的な概念、原理、法則等を理解すると同時に、物質の化学的性質を理解する。

学修到達目標

1. 化学変化を化学反応式で表現できる。
2. 物質量の概念を理解し、化学計算ができる。
3. 化学結合の種類と、その相違点について説明できる。
4. 酸・塩基の定義について説明できる。
5. 化学平衡の定義について説明できる。
6. 基本的な有機化合物の構造、性質について説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 化学の歴史と化学を学修する意義 |
| 第2回 | 物質の構成と化学式(組成式, 分子式, 示性式, 構造式) |
| 第3回 | 化学反応と物質量(原子量, 分子量, 式量) |
| 第4回 | 化学反応と化学量論(化学式, 化学反応式) |
| 第5回 | 化学結合(イオン結合, 共有結合, 金属結合) |
| 第6回 | 酸と塩基 |
| 第7回 | 電離平衡 |
| 第8回 | 有機化合物 |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

定期試験の結果および講義の受講態度により総合的に評価する。

教科書

配布プリント

参考図書・文献

新しい高校化学の教科書 -現代人のための高校理科- 左巻健男 講談社

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

専門教科を学ぶ上で基礎となる化学の基本事項を身につけることを目標として講義に臨むこと。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	生物学(基礎)						
担当講師	松政 正俊						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

医学・理学療法学・作業療法学の基礎や臨床を深く学ぶためには、生物学の知識や考え方を身につけることが要求されます。本科目では、初学者に必要な知識を習得しつつ、さまざまな生物学的現象の関連や共通性、あるいは多様性を認識し、生命現象への理解を深めます。

学修到達目標

1. 生命の特質を列挙できる
2. 生物としてのヒトの特徴を列挙できる
3. 骨の肉眼的および顕微鏡的なつくりを説明し、骨の役割を列挙できる
4. 筋の肉眼的および顕微鏡的なつくりを説明し、骨の役割を列挙できる
5. 四大栄養素の代謝を概説できる
6. 遺伝情報の伝達のしくみとメンデル遺伝を説明できる
7. ホルモンと自律神経系による恒常性維持のしくみを例をあげて説明できる

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | 生命とは？／生物としてのヒトの特徴 |
| 第2回 | ヒトを含む動物の身体：発生と細胞・組織・器官 |
| 第3回 | 骨のつくりと役割 |
| 第4回 | 筋のつくりと役割 |
| 第5回 | 栄養と代謝：エネルギーと物質の流れ |
| 第6回 | 遺伝情報の伝達と発現 |
| 第7回 | 恒常性維持のしくみ：ホルモンと自律神経系 |
| 第8回 | 環境とヒト |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

知識、理解度、問題解決能力を主に定期試験（70％）で、態度、解析力、論理性等を主にレスポンスカード（30％）によって評価する。

教科書

「ワークブック ヒトの生物学」 八杉貞雄 著 裳華房、 適宜プリント等も教材として配布。

参考図書・文献

「ヒトを理解するための生物学」 八杉貞雄 著 裳華房

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

初回は生命の特徴とは何か考えてくること。復習は各回1時間程度、予習は2回目以降30分程度は必要。講義では質疑応答を多く取り入れます。ノートテイキングは必須。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	心理学（基礎）						
担当講師	山崎 剛信						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

心の科学である心理学の基礎を学ぶ。感覚・知覚, 記憶, 動機づけ, パーソナリティ, 集団の性質などを 医療現場で起こりうる問題とも関連付けながら学び, 人間行動を深く理解できるようにします。

学修到達目標

心理学の基礎を学ぶことで, 医療現場で展開される個人, 集団の心の働き・行動について深い理解ができるようになり, そこで生じる様々な問題の解決を行えるようになることを目指します。

授 業 計 画

- 第1回 感覚・知覚
- 第2回 記憶
- 第3回 学習
- 第4回 感情・動機
- 第5回 パーソナリティ
- 第6回 対人コミュニケーションの心理
- 第7回 社会・組織・集団
- 第8回 まとめ
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

期末試験（100％）で評価する。

教科書

なし

参考図書・文献

授業中適宜紹介する。

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

授業は日常で起こることを題材にする。普段から人間に関心を持ち, よく観察すること, 書物や映画, 音楽などから人間について知ることとも大切である。特に大量の読書を期待する。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	情報科学						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	通年
授業形態	講義/実技						

授業概要

情報とは何か理解した上で正しく情報を活用できるよう学修を進めます。

学修到達目標

1. 保健医療ならびに福祉関連情報を中心とした情報知識を理解するとともに、正しい情報の活用方法を理解する。
2. 情報通信技術の理解ならびに基礎的な活用方法を習得する。
3. コンピューター文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーション資料作成ソフトを利用した基本的操作を習得する。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 情報科学概論 |
| 第2回 | パーソナル・コンピューターに関する基礎知識 |
| 第3回 | 情報リテラシー |
| 第4回 | 文書作成① |
| 第5回 | 文書作成② |
| 第6回 | 表計算 |
| 第7回 | プレゼンテーション資料の作成① |
| 第8回 | プレゼンテーション資料の作成② |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

パーソナルコンピューターを利用した実習が含まれますが、コンピュータの事前購入等準備の必要はありません。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	人間工学						
担当講師	及川龍彦 戸来幸恵						
実務経験の概要	及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義/実習/オムニバス						

授業概要

1. 人間工学の概念について学修します。
2. 理学療法と人間工学の関係性について学修します。
3. 自身の生活環境を元に人間工学的視点に立った検討を行います。

学修到達目標

1. 人間工学の概念について説明できる。
2. 理学療法と人間工学の関係性について説明できる。
3. 機器や設備を人間工学的視点に立って考察できる。

授 業 計 画

第1回	人間工学とは？	及川龍彦
第2回	人間工学と理学療法・理学療法における人間工学の応用	及川龍彦
第3回	自身の環境と人間工学的考察①（演習）	及川龍彦
第4回	自身の環境と人間工学的考察②（演習）	及川龍彦
第5回	自身の環境と人間工学的考察③（演習）	及川龍彦
第6回	理学療法機器と人間工学的考察①	戸来幸恵
第7回	理学療法機器と人間工学的考察②	戸来幸恵
第8回	ユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン	戸来幸恵
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材・必要に応じて資料配布

参考図書・文献

人間工学の基礎（株式会社養賢堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本学入学後、初めて経験する科目である学生が多いと思います。十分に復習をして下さい。（及川）
この講義では、解剖学・運動学の知識が必要となりますので、復讐を行って講義に臨んでください。（戸来）

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	道徳						
担当講師	戸来幸恵						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

道徳的規範、モラルを理解するための知識・思考を習得し、自分がどのような心づかいでどのように行動すれば他者とのより良い関係を築けるかを学びます。

学修到達目標

1. 道徳的規範、モラルについて説明できる。
2. 道徳的規範、モラルを理解したうえで自律した行動ができる。

授 業 計 画

- | | |
|------|------------------------|
| 第1回 | 道徳と法律の違い |
| 第2回 | 人の価値観について |
| 第3回 | 功利主義と利他主義について |
| 第4回 | 常識とは何かを考える |
| 第5回 | 基本的マナーについて |
| 第6回 | 自分と他者との関係性について |
| 第7回 | 求められる人間力と道徳的判断力に基づいた行動 |
| 第8回 | 専門職、医療職としての意識と責任 |
| 第9回 | |
| 第10回 | |
| 第11回 | |
| 第12回 | |
| 第13回 | |
| 第14回 | |
| 第15回 | |

評価方法

課題レポート

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義の中では、単独及びグループで発言、発表する機会を多く設けるので、積極的に参加してください

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	人間関係論						
担当講師	戸来幸恵 及川龍彦						
実務経験の概要	戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。 及川龍彦 : 理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	3	時間数	45	開講時期	通年
授業形態	講義/実技/実習/オムニバス						

授業概要

対人援助職ならびに医療従事者である理学療法士は、常に人と人との関係性を考える必要があります。人間関係に関する一般的な知識の理解を得た上で、良好な人間関係を築くために必要な感性や思考、行動を培い、自分自身のコミュニケーション能力を研鑽します。

学修到達目標

1. 良好な人間関係形成のための仕組みを理解する。
2. 社会人基礎力を理解する。
3. 対人援助職としての自覚を持ち、さまざまな観点で人間関係を考え、気づきの力を身につける。
4. 医療従事者として必要なコミュニケーションスキルを身につける。

授 業 計 画

第1回	オリエンテーション、自己紹介、対人関係とは何か	戸来幸恵
第2回	医療専門職に求められる能力と社会で求められる理学療法士像	戸来幸恵
第3回	社会人基礎力について	戸来幸恵
第4回	学生を取り巻くコミュニケーションの現状	戸来幸恵
第5回	コミュニケーションの定義とコミュニケーションスキル	戸来幸恵
第6回	伝える力	戸来幸恵
第7回	傾聴力	戸来幸恵
第8回	観察力	戸来幸恵
第9回	承認すること	戸来幸恵
第10回	国語力、会話力を鍛える	戸来幸恵
第11回	援助の人間関係において必要な基本的態度	戸来幸恵
第12回	相手を知ること、相手との関係性を築く方法	戸来幸恵
第13回	コミュニケーションの取り方の違い	戸来幸恵
第14回	臨床実習で求められるコミュニケーション	戸来幸恵
第15回	医療安全のためのコミュニケーション	戸来幸恵
第16回	集団協調力課題達成演習①	及川龍彦
第17回	集団協調力課題達成演習②	及川龍彦
第18回	集団協調力課題達成演習③	及川龍彦
第19回	集団協調力課題達成演習④	及川龍彦
第20回	自己の理解（エゴグラム・メタ認知）	及川龍彦
第21回	情報の整理（KJ法・SWOT分析）	及川龍彦

第22回 医療従事者として必要とされる人間関係の理解①

及川龍彦

第23回 医療従事者として必要とされる人間関係の理解②（演習）

及川龍彦

評価方法

実技試験(50%)・課題レポート(50%)

教科書

必要に応じて資料、ワークシートの配布

参考図書・文献

理学療法コミュニケーション論(医歯薬出版社)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

医療は患者との信頼関係があってこそ成り立ちます。人間関係を発展させる力を養えるよう日頃から意識して生活しましょう。
(戸来・及川)

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	社会学						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設・老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	1	単位数	2	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

1. 一般的な社会学の概念について学修します。
2. 理学療法と社会学の関係を学修します。
3. 理学療法士の業務を社会的見地から検討します。

学修到達目標

1. 一般的な社会学の概念を説明できる。
2. 社会学と理学療法の関係を説明できる。
3. 理学療法士の業務を社会的見地に立って説明できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-----------------|
| 第1回 | 社会学とは |
| 第2回 | 社会の構成 |
| 第3回 | 社会の構成 |
| 第4回 | 社会学と学際領域 |
| 第5回 | 医療・福祉と社会のつながり① |
| 第6回 | 医療・福祉と社会のつながり② |
| 第7回 | 社会における理学療法の位置付け |
| 第8回 | 医療環境における理学療法士 |
| 第9回 | 福祉環境における理学療法士 |
| 第10回 | 地域における理学療法士 |
| 第11回 | 災害環境下における理学療法士 |
| 第12回 | 社会貢献と理学療法① |
| 第13回 | 社会貢献と理学療法②（演習） |
| 第14回 | 社会貢献と理学療法③（演習） |
| 第15回 | 社会貢献と理学療法④（演習） |

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

医療・福祉に特化した価値で社会とのつながりを検証します。常に新聞等の記事に気を配って下さい。

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	英語						
担当講師	Wang Hui Ling						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要

This course aims to help first-year students get used to English for medical situations using intermediate-level medical English found in the course textbook. The course will be conducted mostly in English, and the project report and written examination will also be in English only.

学修到達目標

- 1) Students would have learned and be able to remember many medical English words, phrases and sentences often used in medical situations in Japan.
- 2) Students would have read about different medical scenes and events that usually happen in a Japanese hospital setting and be able to understand the English conversations and phrases required in these situations.
- 3) Students would be able to apply these information learned into a group work project and be able to answer questions regarding these information in a written test.

授 業 計 画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Course introduction, Self-introduction exercise, <i>Coffee Break 1, Essay 1.</i> |
| 第2回 | <i>Unit 1: Meeting Patients</i> |
| 第3回 | <i>Unit 2: Taking a Medical History</i> |
| 第4回 | <i>Unit 3: Assessing Patients' Symptoms</i> |
| 第5回 | <i>Unit 4: Taking Vital Signs</i> |
| 第6回 | <i>Coffee Break 2, Essay 2, Body Parts: External, Body Parts: Internal</i> |
| 第7回 | <i>Unit 5: Taking a Specimen</i> |
| 第8回 | <i>Unit 6: Conducting Medical Examinations</i> |
| 第9回 | <i>Coffee Break 3, Essay 3, Project details and preparation, confirmation of group members.</i> |
| 第10回 | <i>Unit 7: Assessing Pain</i> |
| 第11回 | <i>Unit 8: Advising about Medication</i> |
| 第12回 | <i>Unit 9: Improving Patients' Mobility</i> |
| 第13回 | <i>Unit 10: Maintaining a Good Diet</i> |
| 第14回 | <i>Unit 11: Caring for Inpatients</i> (Deadline for project submission) |
| 第15回 | <i>Unit 12: Coping with Emergencies</i> |

評価方法

- (1) プロジェクト (50%) (2) 期末試験 (記述・選択) (50%)

教科書

Caring for People (Authors: Michiko Mayuzumi, Tamiko Miyatsu & Philip Hinder)
(Publisher: Cengage Learning)

参考図書・文献

取り上げるテーマに関連する図書・文献については、必要であれば都度紹介をします。

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

Students should refer to the lecture plan above closely, revise the course textbook before and after every class, and listen to the downloadable audio in their own time where possible. Students should work with their coursemates, check their own understanding of the English lessons and ask questions whenever necessary.

【基礎分野】

【理学療法学科】

科目名	体 育						
担当講師	畠山 健 三浦 拓朗						
実務経験の概要							
履修年次	1	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 実習						

授業概要

1. 文化としてのスポーツ活動の楽しさを体験する中で、協調性を養うとともに遵法精神の涵養をはかる。
2. 障がい者スポーツでは、障害のある方々の社会参加のツールから、現在は障害のある人もない人も共に楽しむ機会を作り出す共生社会推進機会を作り出す共生社会推進のツールとしての考え方に变化している。このことについて講義や実技を通して理解を深める。

学修到達目標

1. 健康と運動・スポーツの関わりを理解する。安全で効果的な運動・スポーツの実践方法を理解する。実技をとおして生涯スポーツの獲得を目指すとともに遵法精神の涵養をはかる。
2. 障がい者スポーツの目的、意義などについて理解できる。障がい者スポーツを活用した簡易的な事業を企画・実施できる。

授 業 計 画

第1回	第1回から第8回は、以下の内容をローテーションで行う。	畠山 健
第2回	① バレーボール ②バスケットボール ③バドミントン・卓球 ④その他	畠山 健
第3回		畠山 健
第4回		畠山 健
第5回		畠山 健
第6回		畠山 健
第7回		畠山 健
第8回		畠山 健
第9回	障がい者スポーツの概要	三浦 拓朗
第10回	障がい者スポーツ実施 ①	三浦 拓朗
第11回	障がい者スポーツ実施 ②	三浦 拓朗
第12回	障がい者スポーツ実施 ③	三浦 拓朗
第13回	障がい者スポーツ実施 ④	三浦 拓朗
第14回	障がい者スポーツ実施 ⑤	三浦 拓朗
第15回	障がい者スポーツを通した障がい者との交流①	三浦 拓朗
第16回	障がい者スポーツを通した障がい者との交流②	三浦 拓朗

評価方法

畠山健範囲（実技の関心・意欲・態度40%、技能・知識・理解10%）と三浦拓朗範囲（授業内容の理解度（関心・意欲）とレポート）の総合で評価する。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考図書・文献

障がい者スポーツ(公益財団法人日本パラスポーツ協会HP等)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

安全で効果的な授業を展開するために真摯な態度で取り組む。

スポーツを楽しみながらも,多様な参加者へのプログラム展開について考える機会としてほしい。